

令和4年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	みんなで作る共生のまち～WheeLog! を活用して～
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 教授・藤井和子
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) 上越市共生まちづくり課、上越市社会福祉協議会地域福祉課、一般社団法人 WheeLog
4 事業の趣旨・目的	<p>本事業は、バリアフリーマップアプリ「WheeLog!」を活用したまちあるきイベントを実施するものである。上越市は、平成11年3月に「上越市人にやさしいまちづくり条例」を制定し、障壁のないまちづくりに取り組んでいる。そこで重要となるのが、心のバリアフリーに対する人々の意識を高めていくことである。誰もがバリアフリーなまちづくりに参加できる「WheeLog!」を活用したまちあるきイベントを実施することによって、「人にやさしいまち」はみんなで作っていくものであるという意識の醸成につながることを期待される。</p>
5 事業活動報告	<p>本事業では、①車いすまち歩き、②車いすユーザーとのトークセッション、③車いすユーザーと考える共生のまちづくり、④バリアフリーマップアプリ WheeLog! の紹介 の4つの活動を行った。以下、それぞれの活動について報告する。</p> <p>1. まち歩き (10月2日実施)</p> <p>1) 参加者：上越市民3名、上越市役所共生まちづくり課職員2名、車いす当事者1名であった。</p> <p>2) 内容：</p> <p>①春日山駅から高田駅間における、乗車時、乗車中、降車時における車いす操作及び援助に関する体験</p> <p>②高田駅から高田小町間における車いすでの移動の仕方、介助の仕方に関する体験、車いすでの移動・商店での買い物、バリアフリースイールの使用の仕方、介助の仕方等に関する体験</p> <p>③高田小町にて共生のまちづくりを考えるトークセッション</p> <p>話題提供者：</p> <p>関 由有子氏 (一般社団法人雁木のまち再生 代表理事：一級建築士)</p> <p>岩城 一美氏 (一般社団法人 WheeLog 運営委員会サークルチーム)</p> <p>宮腰 一樹氏 (NPO 法人ギフテッド 理事)</p> <p>2. 車いすユーザーと考える共生のまちづくり (11月19日実施)</p> <p>オーレンプラザで開催された上越市教育コラボ2020学び愛フェスタにおいて、「みんなで作る共生のまち～WheeLog! を活用して～」と題して、車いすユーザーと考える共生のまちづくりの場を設定した。また、その場において、バリアフリーマップアプリ WheeLog! の紹介を行った。</p> <p>1) 参加者：車いす当事者1名、本学学生20名であった。</p> <p>2) 内容：</p> <p>①本学学部学生が取り組んだ体験学習のポスター発表に対して車いすユーザーからコメントを頂く場を創り、参加者とともに共生まちづくりに関する意見交換を行った。</p> <p>②バリアフリーマップアプリ WheeLog! のチラシ及びパンフレットを配布し、説明希望者に対してアプリの説明を行った。</p>

<p>6 本事業で得られた成果</p>	<p>「車いすまちあるき」及び「トークセッション」に参加した障害当事者、一般市民、福祉行政担当者は、それぞれの視点から、活発に意見交換を行っていた。共生のまちづくりの当事者として主体的に考える場を創出することができたのではないかと考えられた。</p> <p>また、「車いすユーザーと考える共生のまちづくり」に参加していた学生は、自らの学びの体験をもとに車いすユーザーや大学院生と活発に意見交換を行っていた。自らの体験があったからこそ、主体的に当事者意識をもって共生のまちづくりを考えることができたのではないかと考えられた。</p> <p>本事業によって、共生のまちづくりに主体的に取り組んでいくためには、車いすユーザー等障害当事者と共に日常生活（歩く、買い物をする、食事をするなど）を体験することと対話することの体験が重要であることを改めて確認することができた。得られた成果は、令和5年度学部1年生の必修授業（ICTを活用した通級による指導（自立活動）の授業デザイン）の改善に生かしたいと考える。</p>
<p>7 その他(成果物等の名称)</p>	<p>特になし。</p>

※事業の実施風景を写真撮影し、本報告書と併せて提出してください。



まちなかのバリア



まちなかのバリアフリー



学び愛の場



学び愛の姿